京都新聞　2012年(平成24年)4月5日　木曜日

四神躍動 韓国万博へ

京大教授が映像作品出展



巨大スクリーンに試写された映像作品の一場面。白虎(中央)と玄武(左下)が争う＝2月、韓国・麗水市、土佐京都大教授提供

5月12日から韓国南岸の麗水(ヨス)市で開かれる麗水世界博覧会(万博)に、デジタル映像作家の土佐尚子京都大教授(50)が東西南北の方角を守る四神をモチーフにした映像作品「アジアンセイント」を出展する。

麗水万博のテーマは「生きている海、息づく沿岸」。万博委員会から作品を依頼された土佐さんは「海と人類とのコミュニケーションの守り神に」と願って四神を選び、3分間の映像で表現した。

朝鮮半島の古墳に描かれた青龍や白虎、朱雀、玄武が徐々に動きだし、姿を変えながら争って混沌(こんとん)となる。続いて海や山水を背景に青龍の口から古代中国の甲骨文字が飛び出し、漢字さらに般若心経へと変わることで、知恵や思想を手にした人類の共生へのメッセージにしている。

8月12日までの会期中、会場のメーン街路となる「エキスポ・デジタル・ギャラリー」の天井に設置された長さ250メートル、幅23メートル巨大LED(発光ダイオード)スクリーンで上映される。

土佐さんは「世界最大級のスクリーンに見合う迫力ある作品ができた。文化の融和を感じ、アジアが一つにつながってほしい」と話している。(松浦吉剛)